

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	フルテックTG
会社名	株式会社 CL02 Lab
住所	兵庫県西宮市松生町 11-18-1F
担当部門	研究開発本部
電話番号	0798-56-9623
FAX番号	0798-56-9633

作成：2019年12月18日

改訂：2021年6月21日

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

物理化学的危険性

爆発物	分類できない
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性固体	分類できない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

健康有害性

急性毒性(経口)	区分 3
急性毒性(経皮)	区分 2
急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)	区分 2
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (呼吸器系)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (心臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境有害性

水生環境有害性(急性)	区分 1
水生環境有害性(慢性)	区分 1

オゾン層への有害性

分類できない

上記で記載がない危険有害性は分類対象外。

【GHS ラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起用

危険有害性情報

危険

飲み込むと有毒

皮膚に接触したり吸入すると生命に危険

皮膚刺激

重篤な眼の損傷

遺伝性疾患のおそれの疑い

呼吸器系の障害のおそれ

長期にわたる又は反復ばく露による心臓の障害のおそれ

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性なし

安全対策

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石けんで洗うこと。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合

医師の診断／手当を受けること。直ちに医師に連絡すること。気分が悪いときは、医師の診断／手当を受けること。口をすすぐこと。医師の診断／手当を受けること。

皮膚刺激が生じた場合

汚染された衣服を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。涌出物を回

保管	取すること。 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。施錠して保管すること。
----	--

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学特性	酸化性固体
化学名	亜塩素酸ナトリウム、酸性剤、発泡剤
CAS 番号	7758-19-2
濃度又は濃度範囲	非開示
官報公示整理番号（化審法）	(1) - 2 3 8

4. 応急措置

皮膚に付着した場合	すぐに大量の水で洗い流した後、石けんでよく洗う。
目に入った場合	すぐに大量の流水で 15 分以上洗眼する。
飲み込んだ場合	すぐに水で口の中を洗浄する。 いずれの場合も医師にすみやかに相談する。

5. 火災時の措置（周辺火災時）

消火剤	周辺火災に応じた消火剤を使用すること。
使ってはならない消火剤	特になし。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。

6. 漏出時の措置

人体や衣服を損傷する可能性があるため、触れないように注意しながら大量の水で十分に洗い流す。洗い流すことができない場合は、還元剤のチオ硫酸ナトリウムにて分解する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取り扱い	本タブレットは必ず 1 L 以上の水を溜めた密閉可能な容器内で溶解させること。
技術的対策	少量の水をかけると高濃度の二酸化塩素ガスが発生するため、本タブレットを絶対に水で濡らさないこと。 専門業者以外の者に取り扱いさせないこと。 落下等の衝撃で錠剤が破損する場合がありますので、注意すること。
保管	
保管条件	直射日光、高温多湿を避け、冷暗所に保管すること。 幼児の手の届くところに保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
許容濃度：	
日本産業衛生学会	設定されていない
A C G I H	設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具	ハロゲンガス用防毒マスク
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡（ゴーグル型）、顔面シールド
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣、長靴、前掛け

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状等	白色錠剤
臭い	なし
密度	データなし
融点	180～200℃で分解する。
沸点	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	不燃性
燃焼または爆発範囲	なし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
溶解性	水：436 g/L (25℃)
オクタノール／水分配係数	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	常温常圧で安定
危険有害反応可能性	水に溶解すると反応して二酸化塩素を発生する。二酸化塩素の濃度が密閉系で高濃度（10vol%以上）になると分解爆発する危険がある。
避けるべき条件	加熱、衝撃、摩擦、可燃物、着火原、混触危険物質との接触
混触危険物質	データなし
危険有害な分解性生物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	ラットLD50>300mg/kg 区分4
急性毒性（経皮）	ウサギLD50・ATE>1000mg/kg 区分3
ミスト吸入毒性	ラットLD50>0.5mg/kg 区分3
皮膚刺激性	ウサギ弱刺激性 区分2
眼刺激性	刺激性あり 区分2

生殖細胞変異原性	経口で陰性 区分 2
発がん性	区分外
生殖毒性	区分外

10%の数値がないため、上記数値はより毒性の強い 25%を適用した。

1 2. 環境影響情報

生態毒性	甲殻類(オオミジンコ) E C 5 0 (48h)0.0146ppm 加算式でE C 5 0 (48h)=0.1mg/l となり、区分 1 とした。 慢性毒性は、水中の挙動または生物蓄積性が不明なため区分 1 とした。 二酸化塩素水は数 ppm 以下の微量であれば、水質浄化作用として有効であるが、高濃度では、魚類、植物を侵す恐れがある。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

1 3. 廃棄上の注意

廃棄処分するときは、内容物を除去した後に行う。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	該当しない
国連番号	1496
国連包装等級	亜塩素酸ナトリウム
国内規制	クラス 5.1
IMDG	5.1
特別の安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
応急措置指針番号	154

1 5. 適用法令

消防法	該当しない
労働安全衛生法	表示該当物質に該当しない、通知対象物質に該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
海洋汚染防止法	海洋汚染物質（法第 38 条 4、則第 30 条の 2 の 3、平成 4 年運輸省告示 323 号）
船舶安全法	腐食性物質（危則大 3 条危険物告示別表第 1）
航空法	腐食性物質（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）
道路法	非該当
化学物質管理促進法（PRTR）	非該当

16. その他の情報

参考文献

改定第3版化学品法令集 化学工業日報社（2001）

化学物質安全性データブック改定増補版 化学物質安全情報研究会編
（1997）

改訂版労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社（2003）

薬事法・薬剤師法・毒物及び劇物取締法解説第14版 薬事日報社（2004）

責任の限定について

本 SDS は、記載内容は現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成してありますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。